

- 1 教育事業名 令和3年度「美ら島サンゴ大作戦」
- 2 ね ら い 国立公園に指定されている慶良間諸島の豊かな自然の中で、スノーケリング活動を通したサンゴの観察等、直接体験を重視し、ESDの視点を取り入れた海の環境学習の実践に取り組み、環境問題への関心を高め、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を育む。また、サンゴを題材（教材）として生物多様性や環境問題について、専門家から学んだことや体験活動から習得した学び（知識及び技能）を活かし、他者と話し合い（対話）、ふり返り及びまとめ（思考力・判断力）を行い、自分の考えや想いを発信（表現力）することにより、「ジブンゴト」「ミヂカゴト」として「価値観と行動の変容」を育み、一歩踏み出す（学びに向かう力、人間性の向上）ことができる課題解決能力を醸成する。
- 3 期 日 令和3年11月13日（土）～14日（日）1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 24名
- 6 参加人数 20名
- 7 参加者内訳 小学5年生 9名 小学6年生 3名
中学1年生 4名 中学2年生 2名 中学3年生 2名
（男子9名、女子11名）
- 8 講 師
 - ・米田 英明 氏（琉球新報社通信員）
サンゴと暮らし～人々の暮らしの中で～「根元家石垣見学」
 - ・森 有紀子 氏（特定非営利活動法人 海の自然史研究所）
サンゴのテリトリーウォーズ
サンゴと暮らし～「ジブンゴト」「ミヂカゴト」について考える～
 - ・木島 悠太郎 氏（一般社団法人 JAPAN WATER PATROL
 - ・諸見謝 尚（国立沖縄青少年交流の家 企画指導専門職）
 - ・三富 虎太郎（国立沖縄青少年交流の家 事業推進係）
 - ・與那嶺 悟（渡嘉敷村役場）
スノーケリングの基礎と海中観察
慶良間海峡のサンゴ生態系ウォッチング
まとめ・発表会

9 実施プログラム

小潮 満潮 15:40(168cm) 干潮 8:46(61cm)

11/13 (土)	9:00 10:00 11:20 11:40 12:00 13:00 15:30 16:00 17:30 18:00 19:00 20:30 21:30													
	集合 受付	フェリー	移動	オープニング	昼食 (注弁)	(13:00-15:30) (2.5h)@海洋研修場 渡嘉志久湾の観察 「スノーケリングの基礎と海中観察」	片付け シャワー移動	(16:00-17:00) (1.0h)@渡嘉敷集落 サンゴと暮らし 「根元家石垣見学」	移動	夕食	(19:00-20:30) (1.5h)@本館 サンゴのテリトリーウォーズ	(20:30-21:30) (1.0h)@本館 サンゴと暮らし 「ジブンゴト」と 「ミヂカゴト」に ついて考える	入浴・就寝準備	就寝

長潮 満潮 16:24(176cm) 干潮 9:53(63cm)

11/14 (日)	6:00 7:40 8:30 9:00 12:00 13:00 14:30 14:40 15:30 16:40 17:20										
	起床 洗面 準備	朝食 清掃 点検	移動 準備	(9:30-11:30) (2.0h)@渡嘉敷海峡沿岸 サンゴウォッチング 「慶良間海峡沿岸サンゴ生態系ウォッチング」	シャワー 昼食 (注弁)	(13:00-14:30) (1.5h)@ケアR まとめ方の勉強(10分) まとめ(60分) 発表(20分)	エンディング	移動	フェリー	(0.5h) 報告会 解散式	解散

10 事業の様子



スノーケリング器材の使い方



スノーケリングの基礎



実習「根元家の石垣見学」



サンゴの生態について



サンゴのテリトリーウォーズ



自分ができること



慶良間海峡でサンゴ観察



まとめの時間



まとめ交流

11 エピソード（参加者の声、アンケートより抜粋）

【参加者の声】

- ・地域の人たちは、サンゴをうまく活用して生活していることが分かった。
- ・テリトリーウォーズでは、サンゴの名前や特徴等、楽しみながら学ぶことができた。
- ・人間の都合でサンゴが減らされたり増殖させたりする等、いろいろな考え方があって複雑な気持ちになった。
- ・家族や友だちにもサンゴのことについて教えていきたい。
- ・将来は海を守る仕事に就きたい気持ちが強くなった。

12 担当者所見

（1）成果

- ・参加者全員がスノーケリング活動を行い、サンゴを観察することから地球の環境について考えることができた。
- ・「サンゴテリトリーウォーズ」を通して、人間の生活（ゴミや汚水、赤土問題）がサンゴに影響を及ぼしていることを理解することができた。
- ・体験したことや学んだことにESDの視点をもたせることによって、「自分に何ができるのか」「何を伝えたいのか」について考えを深めまとめることができた。

（2）課題

- ・より安全かつ効果的な事業運営のために、班活動を支援するスノーケリングインストラクターやファシリテーターについて、適切な人数を確保できるよう計画的に調整を行う必要がある。
- ・ESDの視点をもって活動に取り組むことで深い学びにつながっているのので、ワークシート等にSDGsでのふり返りも検討したい。
- ・1泊2日になった場合でも、ねらいを達成できるような学習プログラムを考えなければならない。